

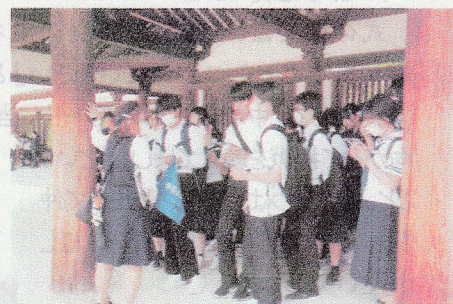
生徒会委員会

西中では委員会活動も活発に行われています。ボランティア委員会では、日々草の種をまきました。ごま粒よりも小さな種を一粒一粒丁寧に、ポットにあげた小さな穴に入れ、土をかぶせていく作業です。きれいな花が咲くことを楽しみに頑張っていました。この他にも保健環境委員会では毎朝の健康観察、図書委員会では本の貸し出し、放送委員会では毎日の放送、生活委員会では服装点検や生徒玄関前で朝のあいさつ運動をおこなっています、応援委員会では壮行会での応援などおこないます。委員会活動が活発なのは、西中学校の伝統です。



奈良・京都への修学旅行

GWの終わりとともに、5月7日(水)3年生の修学旅行が始まりました。3年生にとっては学校を離れた地、奈良・京都で事前学習の成果を発揮する3日間です。スローガン「古都りっぷ co-Trip ~きょうという日も仲間となら~」のもと、実行委員長からの「2泊3日の修学旅行を通して、個人・学年共に成長し、その後のさらなる成長につなげることができる機会にしたいです」という言葉の通り充実した旅行になりました。1日目は、世界最古の木造建築物である五重塔がある法隆寺の見学と奈良公園での班別行動。2日目は京都タクシー自主見学と妙心寺での座禅体験。妙心寺では「看脚下」(かんきやつか)というお話を聞きました。自分の足元を見ること、自分自身を見つめ直すことの大切さについてのお話しでした。3日目はクラス別に1組は清水寺と三十三間堂、2組はトロッコ電車と嵯峨野散策、3組は伏見稲



荷大社と東福寺、4組は平等院と京都タワーの見学でした。3年生にとって、3日間であくさんの文化遺産に触れ、仲間との絆を深めることができた修学旅行は、学年としての成長も感じるができたと思います。この経験を生かし、3年生の今後の活躍に期待したいと思います。



だるま

私の西中での朝の仕事は各クラスにダルマの日替わりカレンダーを届けることから始まります。ある人との出会いがあって、いつからか、ダルマを筆ペンで描くようになりました。下手でしたが「好きこそ物の上手なれ」という諺どおり、ダルマを描く機会が増えるたび少しずつダルマっぽい絵が描けるようになり、それが自分でも嬉しかったのです。ダルマは、小さな頃から家にあり、お祭りや旅行先で見かける身近な存在でした。また、何かお願い事をするとき、片目を入れて、願いが叶ったらもう一つの目を入れるように教えてもらいました。ダルマは、何度投げても、必ず起き上がることから「辛抱強さ」「意志の強さ」「七転八起」「必ず成功する」威厳のある容姿から「隙がない」「集中力」「心が乱れない」手や足がないことから「足を出さない→損をしない」「うっかり手を出さない→何事にも慎重である」などなど、いいことがたくさんあります。

私は、西中学校の生徒に伝えたい言葉をダルマの横に添えて書いています。ダルマのように転んでも必ず立ち上がり、意思を強く持って、自分の夢に向かって進んでほしいという願いを込めて、毎日ダルマを描いてクラスに届けています。

